女學範

上

마산9
788
1

788

帝國圖書館藏

於和名抄或云
高麗加多流以丹志同強為
義爲小詩爲師子兒〻古紀象
罪毛茶同已何言无裳乃架羅玖
方雲騰流伊見赤奈爾波紫末
字爲夷河津めし太郡諸土利而味
累平女學莊流意婦帝英雖李計
漢宋爲也邪聖宇尚義以久意紀

帝國圖書館藏

第二幕斜屋迦納保夫眉拉爾
母埜吳万蒙亜菜留哉刀东抹尔
遙至吳呂樺多何項步安迷影大
江乃資潮东望川水例但度紀拔
油沸尼層勢与仙重の思赦夢藻
穂遊令巨能旌流許造元棗倫唐
昆ゝ訪莅国留舞句歌等杰矢麻
杜乃府未流筆池太斗智京侍俳

漏図的也寸彩滿図堪仁迷理飛
弛雍里茂拾拍緩丁非唐苦代荷
最手蕃而盤詰賣年唯留浦山毛
他地孤ゝ粤作仕將累迷務名能
吳氣法巾塗毎車瑠数長聡破妃
屠津流阿亘沙式疾梨律来氏祥
谷徒祈湖喻拾蒙項須賀拵伊那
寿乗退旅粒娜瑠奚年帆乃阿菜

保今齒倚夷沮太尚匡波拔戈妃
庭麻呂于布佐庸藤授附容互
拔他南方麻呂字津羅拔挽
去奇宮制意麻呂俗意川京奴
明和五年九月中院

眉谷麻野於紀京

女學範目錄

上卷

學問大意
女官品階
廿一代集
歌人名數
和字法式
料紙
女中學者
女中文人
書學

三從道
讀史
三十六人家合
百人一首
和字讀方
賢女 并孝婦
女中詩人
女中家人
給事

下書

十種香　　蓋物

無垂方　　懐紙短冊

文具　　絵具

歌牌　　貝蓋

衣服　　染色

布帛　　器用 并に厨子黒棚等

大和詞　　和琴

筑紫琴 并図　　雙六

雛祭　　七夕祭 并図

女学範目録早

女学範上

学問の大意

唐土聖代正道書

孔子公書

男女学問

男女若党此方

白雪枝書

唐土女書

此方書

学問

周学問

蛍窓

大江資衡述

物語　草紙

つくもがみ　ものがたり　しゐてぬみ　ぬるぬみ　ぬれぬれ
よゝ　ぬれぬれ　ちもざ　ぬるぬる　ぬれぬれ　ぬれぬれ
つくりいぶ　ぬる　浄留理　ぬやぬや　ぬりこゝ　ぬるぬる　小歌　ものを　ものゝて。
春　ぬれぬれ　ひろなぎ　ぬるぬる　ぬるぬる　ぬる　冬　ぬる　夜　ぬるぬる　ぬるぬる　ぬる
ぬ　ぬゝ　ぬゝ　ぬぶた　ぬ　ぬゝ　ぬゝ　ぬゝ

わがこころをつくしてつかふべきなれば、ひとこころよう
めたれば、父母色和詞ぶぶのこころをさうめること、ぶぶのこころをつくして。
善諫事心
ふるまのづからよむるせたまふべきなり。おほいなる孝
さしめやすし。人家嫁夫尊敬やまむ。
謙
うづくまるこのくまで、女性皇女英心舜帝
れいかに、妻のかくるこころをつくしつかふまつるべき
奢道
つくしつもぐりもちごりたまふこころみちをつくし
辟敬卑賤身
くちゐんをうやまひたまふべきなり。まいくこきいやしきこと。
父母孝夫
ちくふいくをつくしこころをつくしまつる
夫人有
べしとおもふこころいづべしとあれば。

それをうんちゆふかぎりのきんちゆ。こころざしたこころ
志起
あものみちおのづからむるこころまるちりとのいへよゆたくあること。
姑父母夫家
とこころをとふぶのこころをつくしやまひよろづのこと
男
つまふみづくつかはつるべしとくびとはぶぐこのいへよく。
終家其家心
をたるべきみちなりのこころ。夫身死嫁外
いへうこたぐこころをとりぶぐこのいへのむじ
家鳥獣事古聖人
すのいまめふくこたまふこころをえこのつきまふ
戒悪古書
べきこころをえれ。列女伝。ちなでんをまーちよ女正書
しこみこくやんちのたぐきみちを。たこちよべきもの。
道行
女官孫階
嫁司位進
れつこくねよ。こませ孫品多ふを。こなたはきこのちりはの

委
くハーたてまつり　筆
ふぐのつかさ　きよいの女　孫ども　孫ども
女ども　ときとちんれいふぶ　二　三　ふのん。
ちゝぐ　中宮
こるもと　國母
ふよう　女院
ぼこう　母后
ふようご　女御
べちれ　別名
なかより
ないしの　典侍
ぎやうらいつぼね　上蔦局
みかれつぼね　二位局
ふよくふど　女藏人
うね　采女
むらさき　國
ふぐくよりぷくぶきびちよとえうび
こぶまつせちより。
ふよくふん　女官
ちよけれ　諸家
ちよだいぶのむちろんまいる。ふよう
くりんぷのぐうこんぷ　采女
うねをのくるちより。
ふんどり　水取
ゐし　闈司
らひのむちめなどまいる。
くすりつかさ　藥童子
みだい　御臺
まうひめ　舞姫
ざふし　雜仕
ちとぢうく　下仕
こぶ　刀自
ちよだいぶ　諸大夫
とのとづかさ　主殿司
ふよくちゐ　女孺
ちやうこく　尚茶
きくみまんどころ　北政所
ぬき　舞妓
ひがしまつりつかさ　東堅司
うゐわうく　上童
ちまつもの　半物

このほうも。たほだや〳〵ら〳〵。こだや〳〵ら〳〵。ちゝら〳〵。むんらけな。
むきな。こゝちのな。おゝつ。あぜちみつぼね。ちゝう。こゝん。ゝ
けなちゝこゝりゝ。そのちゝなおほしゝぶよゝゝらさんけあゝまし
とゝゝふちゝるゝ。くゝちゝたゝとゝゝあゝ。女房官ゝ。女官志職ゝ抄。
官職抄。官職ゝゝあゝ。ちゝゝをあゝせゝゝべし。

讀書

女子教唐土書讀

をんなこをちゝをしゝふるよ。ちゝゝらこゝのゝゝごゝとハよゝみゝゝられゝ。
和漢語。女ゝ書。大和小学。女小学。女大学。大和俗訓。
五常訓。孝子訓。家道訓。大和女訓。女訓鴨鳩芽。
女訓翁草。女実語教。女童子教。女今川。ちゝよゝふみを。
教是書皆幼

をゝふゝゝ。ゝのゝらみゝふみハゝゝまかゝちゝゝふゝていゝゝきゝちゝき

女教書親孝兄道

をんなとよゝよゝむゝゝきゝゝゝゝ。ゝゝゝとゝゝ。ゝゝたやゝふゝゝをつゝ。せゝゝをゝやまひ。
弟慈

たゝゝゝとをあゝれみ。ちゝゝゝ。
或文云世婦乱女道人

あゝふゝゝよゝよのひゝとのたゝれゝゝきてゝ。ゝゝちゝをちゝゝゝ。
婦乱道

ちりぬゝゝハ。源氏あゝ。伊勢あゝ。あゝきゝむゝやゝ。ゝゝんゝゝ。源氏
男女婚乱伊勢好色

をゝゝをゝんちゝのたゝれゝゝ。ゝをちゝゝ。いゝせゝゝ。いゝろこのむのちゝ
書女教

ゝゝりかゝいゝれゝゝ。ゝりふゝもゝゝゝゝゝゝゝをゝれちゝんなよ。ゝゝふ。ゝきゝの
幼

ふゝあゝゝゝ。ゝゝもゝりぬゝゝたほゝ。ゝのゝゝいゝものゝよゝあゝゝたゝ。
虚言源氏男女

ゝゝゝゝをゝゝくゝちゝれゝゝゝゝちゝきゝゝりゝ。ゝゝんゝゝハゝゝゝこゝちゝん
戒伊勢好色禮

ちのゝいゝまゝゝめゝゝつゝゝれゝり。ゝいゝせハゝゝゝろゝのゝむゝちゝちゝるゝせれゝゝれゝい
義

をゝふゝゝむゝものゝゝりゝぎゝをゝふゝゝむゝものゝのゝちゝゝゝ。ゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝひ

ぶきゝ給。もとさゝこゝろくゞのゝちをさゝざゝよりして。周公孔子
つぐこのむこゝぞのよ善悪このきもかゝゞへざ考。ひとを害そこちひ正たゞ
ゝきみちを道ふゝぎてかつる不経語おゝでをいひいざ拙からちるへし。
和語ご書清原元輔といふふゝ。清原元輔卷
つくれりまきのくゞめよみ卷。ゝ後ゝしけかんゝでを神託せつぎ
のまゝ紀ふよみけかゝちをこゝ勅ゝのりをあつ矢つ家ゝ不ほゝけ世々
賢者かゝこきひゝのことゞをゝる。つぎよたゝきものふのゝとゞ。詞
次賢女つぎふかゝこきをんちのこゝゞあゝ。まきのを詞巻をゝよ終ゝ。ゝ釈やく
氏詞ゝ乃ことむをあつめゝゝ。ゝ皆ゝ直ちをほふかゝ賢こゝんゝを。
教ゝゝたまゝことゞちめを。
女ゝ書ゝいふ女孝経。女誡。女訓。四種女誡のよくさをあつ

めて。女ゝゝをゝいふゝり。女孝経ゝ。唐の陳邈ゝよひゝのつ乃。人妻
鄭氏のつくゝるゝを。この此方ふゝてやまゝゝゝゝゝゝゝゝ。女誡ゝ。
漢乃曹大家ゝよふをんちのつくゝるふゝを。この此方ふゝてやゝゝゝ譯ぎ
どきゝゝ。内訓ハ説ぬ大宗皇帝の帝后のゝゝゝゝ書せたまつ女
ゝちゝ。この此方ふゝてやゝゝゝげゝゝ。女誡も書漢ぬ曹大家のつく化
まゝるふゝ書ちゝを。この此方ふゝてやゝゝゝげかゝゝ。ぬゝ書ちゝ女心
ろたゞゞゝ。おこゝをひのきよ清ゝちゝんゝゝを。ゝゝゝへゝちびき教導
ゝまゝぬゝ書ちゝ。

大和小学ゝよゝいふぬゝ。ふゝゝ書ゝ二種ゝゝゝ。ゝゝゝ一種ゝゝゝ唐土ゝ。ゝゝゝ小
学ゝをゝたゞちゝやまゝゝゝゝゝゝゝゝ誰ゝ筆ゝゝゝゝゝゝゝゝ

いつはりなれハ。唐土の小学ふ。ちゑ〳〵てつくれり。作 男神道
社神終
ゆゑ。このもろ〳〵のものこゝろのまこと
めゝゆゑふや。
女小学ハ。宇保氏のひとゝ作つくるもの。女道正
をゝのむすめ女示梓
女大学ハ。孫おれ貝原益軒。名を篤信といひつくれり。人
大和俗訓も益軒つくれり。三巻
まきと心術とりつ。又のまきハ衣服文飾ととく。六七巻
よ。躬行とのもとハのまきよ意樣ととく。巻説
五巻訓。童子訓。家庭訓。こゝ貝原益軒つくれり
大和女訓ハ紀伊隈本氏嬢訓。井沢長秀とゝ人つくれり。

女訓略抄ハ。井沢長秀つくれり。化序文ハ。井沢氏のむ女
すめ頃かえつくれり化
女訓義ハ。竹田孝彦定亜といひつくれり。人化
女交語教。女童子教。女今川ハ。たぐひなきもの。女
疎
うゝなにこれどいとけなきをんなをゝへて。あゝうめ
うふれば。

廿一代集

廿一代集といふハ。みなやまとうた。和歌集書
集集といふ。書。古歌書。奈良天皇御
宇。たゝ大臣橘諸兄公撰。此
みなを。廿一代集。古今和歌集廿巻紀貫之紀友則化
河内躬恒 壬生忠岑

等勅をなして撰ぜ。假名序ハ世ゝ。後撰集廿卷 坂上望城 源順 紀時
真名序ハ紀淑望ゝ加ゝり。文大中臣能宣 清原元
輔等撰ぜ 拾遺集廿卷 大納言公任ゝ。又ハ花山院 後拾遺集廿卷 中納
言通俊撰ぜ 金葉集十卷 木工頭俊頼 詞花集十卷 左京大夫顕輔撰ぜ
千載集廿卷 三位藤原俊成 勅をうけて撰ぜ 新古今集廿卷 通具 有家 定家 家
隆 雅経等院宣をうけて撰ぜ 七八代集といふ。新勅撰集廿卷 中納言定家 勅
撰ぜ 続後撰集廿卷 民部卿為家 勅をうけて撰ぜ 続古今集廿卷 前内大臣基家 藤原為家
藤原行家 藤原光俊等 勅をうけて撰ぜ 続拾遺集廿卷 大納言為世 勅
撰ぜ 玉葉集廿卷 大納言為兼 勅をうけて撰ぜ 続千載集廿卷 大納言為世 勅をなして撰ぜ 続後拾遺
集廿卷 民部卿為藤 子息 勅をなして撰ぜ 風雅集廿卷 萩原法皇 御自撰 新千載集廿
卷 大納言為定 勅をうけて撰ぜ 新拾遺集廿卷 民部卿為明 勅をなして撰ぜ 新後拾遺集廿卷
中納言為遠 中納言 勅をなして撰ぜ 新続古今集廿卷 中納言雅世 勅をなして撰ぜ といふなり。この

外 歌 書
ほうぶつ。ゝをあつめゝるぬゝあれども。廿一代集ともゝすなり。

三十六人歌合

歌 合 歌 仙

三十六人のうゝあせをゝせんともいふ。ゆ条大納言藤原公任のえゝ
べるゝぞ。おのゝちゝえ盛法師。ゝのひぐらしぎをつくる。

番

十八つゝいとものせり。その三十六人あて。

左 右

柿本人麿 大夫上世の人也 紀貫ゝ 木工頭。五位 凡河内躬恒 甲斐權守 淡路掾
大内記。 聖武御時
伊勢 伊勢守藤原純蔭の女也。七条院ゝ女房。 大伴家持 旅人男。従三位中納言。 山辺赤人 北人
在原業平 従四位上。右近中将。 遍昭僧正 俗名宗貞 素性法師 宗貞ゝ男。俗名玄利
紀友則 大内記 猿丸大夫 何ゝ世の人ゝ知ゝず 小野小町 出羽郡司常澄の女
藤原兼輔 中納言。従三位。堤ゝ号ゝ。 藤原敦忠 大納言 藤原敦忠 後二位 中納言
藤原ゝる光 左近衛少将 源ゝ忠國 紀子。右大辨 壬生忠岑 右衛門府生
五位 四位。

齋宮女御 徽子 後村上の女御 大中臣頼基 祭主神祇大副

源こうく 相模權守 五位 源宗于 兵部太輔 正四位上

菅原清正 兼輔の男 左少弁五位 源順 舉の男 能登守 五位

清原元輔 肥後守 五位 坂上是則 大内記 五位

小大君 女蔵人 左近 菅原仲文 伊賀守 五位

壬生忠見 忠岑男 摂津目 平兼盛 駿河守 五位

歌人名数

くらびとのなまえでをくみありせさるふ。二聖。六ふ仙。梨壺の五人。梨壺の五ふ仙。ちくしいあり。

和ふの二聖とをく。人麿。赤人。二人

六ふ仙といふハ。僧正遍昭。在原業平。文室康秀。

菅原敏行 富士丸の男 右衛門督 四位

源信明 陸奥守 四位

菅原典風 相模掾 従五位

菅原元真 丹波介 五位

大中臣能宣 祭主典領 四位

中務 敦慶親王の女也 母ハ伊勢

素性法師。小野小町。大伴黒主の六人をさしていふ。

梨壺ハ五人とをく。大中臣能宣。清原元輔。源順。

紀時文。坂上望城。凡五人をいふ。

梨壺ハ五ふ仙ハ。をく上東門院の侍女をり。赤染衛門。

和泉式部。紫式部。伊勢大輔の六人をいふをり。

百人一首

百人一首書

人老後小倉山荘今古

りふひゝ。だいのくちゝをくゝみさんさゝみありていみ〳〵へいまハ

歌中成心百首

くゝれもをりよ。ひつくゝふかふかものいをうをを。ひやくををもをり

色紙障子書

いゝゝてをきゝゝふゝいゝく。かゝさんさゝのさゝゝゝ。わゝを

色紙

たまをゝゝ。これをよゝ。をゝくゝさんさゝゝかをきゝ

是世傳小倉山荘

和歌

百人一首。

一首書

色紙

哥

哥

書者名

子息

後世

仏者

書

注

北村季吟仏

其

沖仏

百人とゝめて。

哥

仏

つくれる。

いつとなくこゝ

ろ。

たまく

まこと。百人一首ともいふ。我のまきもの。

哥

ゝ。

ゝ。

ゝ。

大中臣能宣 伊勢祭主 四位

藤原道信 左中将 従四位上

大納言公任 姓藤原。号四條。正二位。

大貳三位 宣孝の女 成平の妻

伊勢大輔 大中臣輔 親の女

権中納言定頼 姓藤原正三位兵部卿 名八仲子。源俊仲女。

周防内侍 三條院請居真。在位五年。

良暹法師 祇園別當

藤原義孝 従五位下 春宮亮

藤原道綱母 倫寧女

藤原実方 正四位下 陸奥守

大納言経任 姓大江 太宰權帥

藤原公任 東門院女房。大江雅致女。

儀同三司母 伊周母。高階業忠女。

法性寺入道前関白太政大臣 名忠通 姓藤原

藤原実成 姓藤原。

藤原清輔朝臣 正四位下 長門守

太宗太夫弓 輔 姓藤原

藤原為時 赤染時用の女

藤原公任 為時の女 宣孝の妻

藤原清原元輔 清少納言の女

左京太夫雅 姓八藤原 三位中将

小式部内侍 橘道貞の女

大僧正行尊 天台の座主

能因法師 姓八橘氏。古曾部号。

待賢門院堀河 神祇伯顕仲女

祐子内親王家紀伊 源経方女

後徳大寺左大臣 名実定

藤原基俊 従五位下 左衛門佐

道因法師 本姓藤原氏

俊恵法師 本姓源氏

西行法師 本姓藤原氏。名圓位。

藤原実定 姓藤原。五條三位

寂蓮法師 本姓藤原氏

皇太后宮大夫俊成 姓藤原。

式子内親王 号萱乃斎院

殷富門院大輔 藤原信成女

皇嘉門院別当 源俊隆女。名隆子。

後京極摂政前太政大臣 名良経 二條院讃岐 源頼政女

藤原隆信 従二位

藤原雅経 姓藤原 従三位

権中納言定家 姓藤原 号京極

大僧正慈円 本姓藤原 吉水と号

入道前太政大臣 名八公経

順徳院 諱守成。在位十一年。

藤原家隆 姓藤原 号八壬生

後鳥羽院 諱尊成。在位十五年。

和歌法式

法式

和歌ハ六義ニ分レ。十體ニ七病ハ定法ノ病ヒ歌ノ式ニ分レ。今式ヒトシクシテ六義トシテ。風。賦。比。興。雅。頌ヲトル。

風(歌)といふ。ものとぶのこと。おのれよめるなり。その事(其人)をいふなり。このひとことはいつり。

雅俗はふるやけたなるさまもの今をきまへと咲やこの花

賦(歌)ハかぞへうたなり。ものすくみ(物)ていつり。

さくはなのうたもむはくこのあちさるく多はいきかれるもちりて

比(歌)ものすべくうたなり。ものうり(物)歌ものうり歌とへ

うるといふをおもてとなり。

君よけさあさのあるたきているたもむきてはきえやらで霞

興(歌)ふるくうたなり。

ようちいはよむこともはきゝ看(誠)俗成のんはのまいかをよんはくを

雅(歌)ものうるといふ。

いはをりのもれにせもりせをいはをりの人のこゝろ(歌)

頌(歌)ものいはむうたなり。

さのもとをもむもしもこんなりさ(六種)はなのこゝろのはるせう

ハやはれ物よりもみくれはよこ(云)むくさはこんてえある

まはたまいつり。まこと(誠)よこ(様)ぬをこの人こゝろ(事)。(難分)つの

ちりきこのうたもこゝろ(但)ものよりこゝよるこゝなこゝろ(事)

六祥とハ七ゑ。短ゑ。捷歌ゑ。混本ゑ。打句ゑ。沓冠ゑ(是)れを

ム祥といふ。

七ゑ。ものこゝろ。ものこゝろ。ゑ七ゑ七ゑ七ゑ七ゑとつゝめるなり。

あるせつよハつゝけうたをこゝろ(一説常歌)ぶるなり。

短ゑハ。ものこゝろ。ゑ七ゑ七ゑ七ゑとつゝめるなり。あるせつよハ(一説)

常歌つのうをも短かるとり。
短歌かるつ。常歌のうをよまるる一句をくるるちり。
保本かるハ。常歌のうをよ。句たるを。五七五七七つめるちり。
形句ハ。常歌つのけるうまて。句ごとに首文字よりめよもしをおくちり。
背冠ハ。句ごとの上下字をもよ。
古今集より出せる短かる一首ちりの。
七条后きさいうせたまひ後をのちよ天ひる　伊勢
おきつちのく　あれのみまるる　くやのうちを　くしてをみし
いせのあまも　ふねちるさる　さくちして　よるむるるく
かるしねる　ちくるいこの　くれちるの　ハ　ふれしちるの
をくれるく　あねのみちを　ひくくをを　をのちりく

ちりれるく　ふれむりけく　ちりてく　とるるのとハ
をるるるき　きくをきよえ　むれるちて　くを海ふハ
ちれ。りのなるるりつく　よくくよくくんめ
十體とハ　有心體　長ける體　可然體　見招體
一節體　枕思體　羅體　面白體　濃體
出会體をつりよ十體とりちり。
八病とハ同ん。孔思。桐嫌。法師。花樒。老楓。中絶。後悔。此
八種やくををりるる。同ん病とハ。おちるくの。二句よあるを
いるちり。孔思病とハ。詞優くくしてくよあるちり。桐嫌
病とハ。本末くの句よくてくくの句あるきちり。渚鴻病ハ。詞偏
くふだいをむれて。こくハ。題不労せるちり。花樒病ハ。を

則はふて。ちくよろの母んくやうとくちうるちう。老楓
病ハ。へん終ゑゑ〜いつたやうよう。上章ゐゐ下ちも三とくちうるちう。
中飽病ハ。三十又六字あるくくをりて。後悔風情
ちくてのちうくやむしくちう。
七病〜〜〜。臥尾病。胸尾病。膊尾病。醫子病。おつ風病。
顔病。遍身病。どりうちう。臥尾病とハ。母つくの発句終とり。
第二句のをりと。おちうぎきちう。胸尾病とハ。母つくの発句
終をハり。第二句のよう六字。おちうぎきちう。膊尾病膊ニ同仏膊
又仏轉膊匹各反。ゑて。たのくのをりと。母んいんとたちうき
膊音轉。他句終本韻
ちうり。第三句れをりと母んいんちう。醫子病ハ。又
句のうちに。母んいん本韻中韻下韻もに母字あるちう。おつ風病ハ。一

句のうちのしに。をちうり中字のしおちうぎきちう。終字同
ちう。二顔母字ちう。遍身病ゑて。二顔のうちに。中ほん顔二字ゐ
とをのぞき。母字あるをといふなり。除
四家式とゑて。欽定標式参議藤原濱成勅をまて仏る 森摂仏式喜撰勅をまて仏る
孫姫式有序 石見女式是ハ安部の清行ろ式と母物ちうや 四種書
とちう。
今合しいふとあり。その次美しいゑて。先刑部ゑ大夏ろ下ろ十餘
少年ゑ在 次立功炊煮 次菅炎庚 次金左太文毫 次左
太糸上 次石講師 次欽定定 人〜ゑ芸 次花ゑ七夏講平
ろ脂坏砂 汁杓 ゑ坏杓 次郭ろゑ 次勅盃 ろ可取ゑ
次月雪祝ゑ 判平 次法大夫金管結具 次呂律曲 次有祿

沢引出抄

和歌読方

和歌定家卿抄云よりつゞけ侍事

くゝちふあゝしゝたべるて。この道理遠求聞

うんちやゝ共わざとよむべきよあゝび。只大和詞見

ろものきゝものつきて。物聞附

よいゝ。云此道

きゝ。書道

のりをさゝるふゝもあゝ。内

のゝちをいゝぶゝて。心

いひつゝめりたゝひちりとぞ。

鹿苑鷲嶺渠

遠聞

誠月氏言至要

只假名

又

序

云韓國日本事

古

七文字

思

ゝをよゝんゝおもゝぐ。何

いゝてもよゝとゝ。題

きゝろゝといゝ。玄

ハいのちよゝへてゝかをわゝ。花

んゝぐゝ。其物

ゝ。初

歌をゝゝめいつゝよいゝ。五文字

ゝりふゝよむゝをきゝふゝ。讀

ゝゝめりくゝゝゝ。初句

なきゝのゝゝを。哥

ゝ。旧

集。三部中哥

心久祝云

浅希

家路志

紅葉尋

讀

題

又終句

嫌

讀

終句

共云

終句

領

哥

多

本哥

古今集ヤ多　さむしろや衣かさしき今夜もや我を待人うちのり姫　後人ふ云
新古今集　きりぎすいかやうの衣かさしき枕もおく　注云拾
多をよむ　讀　言葉　思
ねをよむ　言葉　新　嫌
ねをよむ　言葉　哥
ねをよむ　哥
ねをよむ　哥
ねをよむ

後哥集書何

のちうたをあつめたるふみとものてもあんだうよむべし。

かくのごとくしてよみつゝめきて。おほよそうたのよまるゝ

ものもとひとのかたりきき。

讀人

哥のよみかたのの法式をもてるべきふみとはやはり順徳院勅

書

和歌用意二条家の抄 俗家大概定家の八雲口伝 為家の悦目抄 基俊ア

定家 和歌初学抄 飛鳥井家の抄 三賢秘決

定家 初学抄

定家 初学抄

定家 初学抄

きりつぼ 桐壺　たゝさ 帚木　うけせみ 空蟬　ゆふがほ 夕顔　わかむらさき 若紫
さてるつむはな 末摘花　もみぢのが 紅葉賀　はなのえん 花宴　あふひ 葵　さかき 榊
はなちるさと 花散里　すま 須磨　あかし 明石　みをつくし 澪標　よもぎふ 蓬生
せきや 関屋　えあはせ 絵合　まきはし 松風　うすくも 薄雲　あさがほ 朝顔
をとめ 乙女　たまかづら 玉鬘　はつね 初音　こてふ 胡蝶　ほたる 螢
とこなつ 常夏　かがりび 篝火　のわき 野分　みゆき 行幸　ふぢばかま 藤袴
まきばしら 槙柱　うめがえ 梅枝　ふぢのうらば 藤裏葉　わかな 若菜上
かしわぎ 柏木　よこぶえ 横笛　すゞむし 鈴虫　ゆうぎり 夕霧　みのり 御法
まぼろし 幻　にほうみや 匂宮　こうばい 紅梅　たけかわ 竹川　はしひめ 橋姫
しゐがもと 椎本　あげまき 総角　さわらび 早蕨　やどりぎ 宿生　あづまや 東屋
うきふね 浮舟　かげろふ 蜻蛉　てなひ 手習　ゆめのうきはし 夢浮橋

この五十四帖のうち廿さうそくを。ちうもくする物なり。源氏
侍装束扨。男女装束扨ちがあり。
狩衣しやうぞく。大貳三位しやうしやうしんの女也つくるなり。源氏物語
うちのゝ〳〵てつくるとなんこれ大弐三位なり。紫式部の
むすめ女なりしかば。源氏物語ふかくこゝろをしるべしと
ぞ。此注書このちうをせつふしよ。下紐としやあり。系図あり。系図
なり。逍遥院殿つくりたまへりとなり。
伊勢物語侍りつくるゆゑよしなをもかくいへ
り。又題号書。また左京業平卍。みつくるさまをもかくいへ
るひとゝ卍。人説。業平のじき卍。自記草紙。あ
さゐぐりこゝをとりて事書。そへくるつくり物語。伊勢

宇多院の后宮。七条はきさい。温子のおんなゝ（御）（本）だてまつりし
ゝいふ。けつせりとあり。さもあり侍べし。伊勢物語（注）
をせうふゝ多。知弘抄（化者不知）和冠（化者不知）恵見抄（一条禅閤の化）逍遥院（書）
反家流（三条西殿化）惟清抄（舟橋三位還翠軒の化）肖吟抄（牡丹花老人省柏の化）闕疑抄（細川玄旨化）
柿海（了意化）盤渉抄（踏雪化）山口記（宗祇真名）秘決抄（高田宗賢化）拾穂抄（北村季吟化）
なゝ。（又）まゝ六条宮。（点）のまな井伊勢物語（附）といふあり。漢
（宇書）んゝようゝて。かなものてんをつけられゝ。これハ源井中（傳）
ゝ井さくゝいゝ。つゝ（化）ふるもの。
大和物語（化）太和物語多。在原業平（化）業平（名）
の次帝ぎみまて。在次君（或）ともなづゝ。ある八花山院（御）のおん
（化）つくりものゝもいひつゝ。（物語）このものゝの抄。小村季吟つくる。

栄花物語多。赤染衛門（化）つくりたるといふ。宇多天皇（御）より。
後朱雀院（載）までのあいだ井。帝王中文（書）抄家ゝ（数）をせ井
ゝ。このふゝのうゝ。ゝ十章にのり。てふのて。
つきのえん　花山　さくゝ井収　ゝてぬ爰　ゝゝの別
加やく爰壷　多多ゝ世　ゝ門花　いそゝ者　日永井葛
ゝほゝ花　玉村筆　本弥四郎　あさみゝ力　疑
ゝ中のゝづく　ゝんゝく　ゝ色　ゝ蓑　伴賀
後悔大物　多葉　とゝ杖　峯井月
楚王井爰　衣陳　ゝ水　ゝのゝゝ力　唐林
反上花尺　多合　きゝるハとびゝゝ歌女房　晩結星
蛛振華　根合　煙侵　ゝゝ井　布引滝　紫井

竹取物語出来始俊蔭合書注

竹取物語は。作者さだからず。源順つくれるこもいふなり。源氏あるせのまき紀ふもの。まづものがたり共いでくきそめのたやなる。たけとりの翁おきなる。うつほの俊蔭合をあなせくあらそふこかいきかりしも。この物語共こそなれ。まくら草紙。若菜のこにはあるべこのものがたりよりはあべこもん。

宇津保物語は。能宣原順つくれり。俊蔭のまきいよもうはほものがたりのこもなり。

枕草紙。清原元輔の女なる。清少納言のつくりなる。

注書

なり。ちこちらふこよは。季吟のつくれる枕草子あり。

此文

このふこの裝束はうりよちこたるを。裝束撮あ抄といふ。

注

畑。壺井義知のさこなり。

他

精怜の日記は。太大和道綱母のつくれるなり。右京清佐藤原。倫寧乃むすめなり。

他書

徒然草は。吉田兼好法師共つくれるふこなり。兼好は。

道世

後宇多の帝よりたまはりたる。右京清佐ト称兼好といふこ。

哥

して。たぐちよ法名なりけり。

秀吟

たへなりて。たぐきん右京。

此書注

このふこよりもこなるはぐさぐあ。

書

るなり。壽命院抄二巻。

他

冊樋抄十巻林道春他　夏陸抄二巻長頭

九他

古今抄八巻大和田氣求他　盤渉抄十三巻踏雪他　句解七巻高階楊順他　文隆抄

七巻季吟他　読解又巻南部宗寿他　増補狭樋六巻山田元隣他　大全十三巻高田宗賢他

冬考抄八巻恵空和尚他　諸抄大成二十巻浅香山井他　ちどをよここて。

賢女并孝婦

賢徳有諸人尊敬

よりかこれをたゝちぐぞひとりたゝぐぞうや
まそ子をんなを徳子。藤子といふ。徳子といふひとの。内大臣
秀房の むすめふく。太宰大貳大内義隆のつまとなりたまふ。
賢徳書室
くんとくあるよ。和倫絵よんでうたをかくこと。藤子
いとは。後京政治の むすめなり。京極る次なるひとのつ
まよりたまへりしをんなこれも かしこきさえありて。苦備
かぐき母誉まさひとをうきたまへり。書
孝婦

孝ハよろづ行たこゝろもちの。もとゝなれ。あさなゆふなる父朝
母をとゝやまいてつかふる事。ひとりぶるまふ人鳥獣異
所以也なりとぞいふ。ひとりよくまもれる孝婦人ハ。

兄媛應神天皇の御代の人 佐紀氏直の女大和國添下郡の人 波自采女對馬嶋の人 紙波紀安良
妻筑前の人 橘氏姫仲逸勢の女 福依妻薩州の人 衣縫造金縫の女南南築
紫の女 韓女徵ぬ 月坊内侍 狭白若狭の人 狭田縁采女 照田
姫 千世能姫 ちどをいふ

女中学者

姿容美
さてぐさかこらあてさゝちかいみぐきさえたのかく。韓大和
のふゝのまきくを。ひねもすよゝつ。今古考
書巻終日讀
そのこゝハアをつきまへんをんなをそ。こゝもおほう
理弁唐土
めゝ。まいこのくふ。ふゝまちぶとんをいふのあそ。
書此方女
くにのりぬべをすぐおもちをゝ。ひとゝつる
思一向無
のおろうまるうをのや。そ後こゝの阿婕妤班況の女唐土 班昭班固の妹唐土 蔡文姫
愚

名。琰。邑の女。ちごいつかとんちなりと。れいぐろうしく。ねしさでなすてんの。音不立 驚
氏系式部 菊原為時の女。宜孝の妻。清少納言 清原元輔の女 有智子内親王 嵯峨天皇の皇女 恃学の女
江侍従 大江朝綱の女。或匡衡の女。讃岐 源頼政の女。千三經 少納言信西の女。阿波内侍 父の智徳よりすぐれ文
を学び諸書に達せり。従三位孝子 大江清通の妻 小野氏 名ハ通。号ハ身系子。右春 安井真祐の妻 井上
氏 名通。讃岐の人。井沢氏 名ハ頃賀。井沢長秀の女。ちごといつるや。こらしのひとハ。と
こもまれちる。ぐくさえあぢるすぷふるきふこよえこち。

女中侍人

唐土 詩

ちごいつかとんちなり。つくれるこい。名媛彙詩 明の鄭文昂昂之 名媛
詩歸 鍾伯敬 名嬢詩仙 藤昌琳 讃 ちごふ。れはくえこち。このくふの
きんちなハ。まちごをよこわくること。さだちなびきこゐる
るふ。ふこふでとり。詩 作

唐土 詩

ちごいつかとんちなり。つくれるこい。名媛彙詩 明の鄭文昂昂之 名媛
詩歸 鍾伯敬 名嬢詩仙 藤昌琳 讃 ちごふ。れはくえこち。このくふの
きんちなハ。まちごをよこわくること。さだちなびきこゐる
るふ。ふこふでとり。詩 作
くふのひふくぶきハ。ちのいきこのお母ひをおなじ 功 比 日 多 同
こしてちるべきちなされで文苑秀彙集。經玉集。胡詠集。
玉壺詩稿。帰家日記。唐土詩 書 此方 詩 其 他者 詩 語
ふこよ。このくよのとんなれしつえこち。のさこちつる。姫大伴氏
嵯峨天皇の時代人。有智子内親王 嵯峨天皇の時人。 牛氏 嵯峨天皇の時人。
文華秀麗集。經國集。經國集。經玉集。
尼小氏 和氣氏の女。尼。名ハ法均。經國集。出 十市宗女 美濃國の人 ちこ聖安 後西院天皇の
小野氏 名ハ通。号ハ身系子。桃仙 内田氏の女 朗詠集。出 蓬萊朝詩纂。
羅草 城州伏見の人。於氏 初の名ハ菊。後名を改む。金蕊詩集。出 帰家日記。阿留 和州の人 右春 安井真祐の妻
玉壺詩稿。 立花玉葉 柳川の人。中山詩稿。
懐君菊 字ハ瑶華 京師の人 於氏貴 貴の女弟 江州の人 於氏輝 貴の女弟 江州の人 ちごといつるの
詩を收肯こふのき。

晩秋述懐　姫大伴氏

節候蕭條歳月閑。閨門都閉秋日寒。雲天遠望教宜聽。檐樹晩蟬引欲彈。菊陰常帰餘花冷。荷沼含霜舊蓋孤。寂莫独傷回運促。紛紛為禁尋看。

奉和冥山月　有智子内親王

皎潔冥山月。流光照玉明。無除霜雪浄。隔扇和華清。雲居晴空断。孤猿暁峡鳴。那堪空閨裏。未慰相思情。

奉和除夜　惟氏

白従習都知風塵。北斗柄回歳自巡。信乎自隨除夜尽。幽人独対上陽新。渓流向暖迎春氣。山燭因然避世人。乗云ふ知儀白髪。悠然任去来真。

禅居　尼和氏

柄隠多年慕往来。寂寥此処経過。嬋娟影山樹。寂照堂前花。禅居世異拙。微月入巖阿。

和江侍郎　十市采女

寂寞閑独外。夫婿蕭郎杜馬歸。

冬日去懐　乙主聖安

寂林蕭索常風寒。幽竹空存已夕陽。数月秋宵恨短。為花去日尚思長。栄枯過眼百年内。憂喜傷心一変場。都尉燒香禅坐久。独燈裏々繞孤牀。

處女紙　小野通

遵嚴君之明訓。居茲閑閑之幽。師詩書学四徳。経内

列聖和柔。哀北雞晨於般。喜関雎匹于周。適看古昔之佳人。與列女同遊。温故寧ふ能及。希倫才寡悔尤。書中不遠茅里。眼前忽到幾州。見彼敬姜于魯。竭此孟母於鄒。求女師甚未少。古人徳以追今。履和い恩敦氷。抱貞哀本々ム。服節倹ふ暇飾。行治容而效淫。向窓下而紡績。焼膏油而執鍼。此小勤ふ足苦。恥惰分不ゝ如ゝ禽ゝ。徒飽食温衣。曾成而送光陰。拓裏顔緘口戒畏驕。嗟女史箴。嗚呼余志之堅。不可ゝ以貪富侵。爾家温制玄服。爾風亦倣秋砧。乎只有二親在。家教何為ふ力。家弓之嚴旦豆。母氏之慈而幼。恵子ゝ義方愛。教予ゝ正法式。今未以窺古賢。使余曾ゝ姑息。

如女子之多情。識事之有蠶織。安閨中志在内。不除而乎苦。父自不ゝ書戸庭。言幼ふ於國。精神肅而ゝ閑也。四隣都而端直也。思日月之荏苒。曾業之供子職。孤寸曾詒罹。永思而ゝ抑ゝ。

留別

丹上通

恩情何浅ム年好。別恨難堪茅里。月おお恋涙痕新。

対月寄懐

蘭草

風月雙清夕。高楼試一眺。光縈宇水亭。影向旭山隠。

独自閑移迹。誰家弄留恵。堪惜歳紙去。花傷動ふ心。

拜新月

於氏

中宸物新月彩身宋騎秋笑向阿爺問清輝照幾州

文部

漢宮樹意十二棚笙歌長使聖彩歡那知遥狩原京月偏照蓬萊玉枕寒

立花玉蕊

秋夜懐舊

幡君蕙

金風秋満文蕭條人去原来往多遥窓外梧桐紫上雨傷心一枝有芭蕉

月下雲石

氏貴 時年十三

江上月華明秋風乃彩模依稀杵急声悲満孤城

氏輝 時年十

芙蓉萎満小池黄常一喚夏夕時起来忽見陌頭

文部

風外彩垂揚柳緑

女中文人

大和言やまとことばをしらせる。婦ぐ北すさひ。やうふいみ出 華 優美 誰

清ト。きよ〳〵うちるいと書興 學 もまうぶてん。かくにのてんすどいつめれ。どみまうすわうむうひて。書 三 ふかいつくまばふるきぬこころ。ゆさゆるまとあ〳〵め書 古 募 真名 書 まれ。いあ〳〵をきうるまぢ。まんちのふ〳〵かんよう。ひとときを 劣 ら〳〵たくぞおもはれ。紫式部。大武三位。清少納言。伊勢。赤染衛門。道綱母。ちごのふ〳〵つ〳〵やう。ことくふのひとのふ〳〵 文 異國 人 も。をさく〳〵むしとなまりやを。源氏物語紫式部作 狭衣大武三位作 枕 草紙清少納言作 伊勢物語伊勢作 栄花物語赤染衛門作 情怜日記道綱母作 ちごの

詞 皆 妙
こゝだ。ちるさくら。

女中歌人

人 心 萬 言
ひとのこゝろをたねとして。よろづ代のことの葉とぞなれる
和哥 今 為 古 為
やまとうたは。いまもさいみ。古をきてなるゝ。つきて小野小町

出羽郡司常澄女 伊勢 後花園院 中務 敦慶親王女也 紫式部 為時の女 大貳三位 宣孝女。成平妻。
和泉式部 大江雅致の女 小式部内侍 橘道貞の女 小大君 女藏人左近 小侍從 お揺 源頼光の女
坂上女帝 不詳 三國町 紀名虎女 橘ゑ平女 齋宮女御 徽子 るゐ内侍 時明の女
清少納言 清原元輔女 赤染衛門 赤染時用女 紀伊之女 永福門院 後西園寺太政大臣女
周防内侍 源経仲の女 紀伊 紀伊守の女 小弁 懐尹女 弁乳母 後京極時の女 白女 大江玉洲の女 後成
ゝ女 平親清女 大江政重女 從三位為子 大納言為世女 典侍固子 敦忠女
周防 基世王の女 待賢門院堀河 神祇伯顕仲女 大江太成女 安嘉門院四条 平廣繁女

上道門院中務 道雅の女 宮内卿 源俊隆女 殷富門院大輔 源頼政女 二條院讃岐 源頼政女
ふるいこゝろのさ。

手 歌 妙
ぬ。まことのこゝろをとゝのへ。

新古今集 まき山を横きるやまいたるく我とゐて人をゝるる 坂上女郎
古今集 やよやあて山部さてをてんわを世中よ住わ乙ぬよ 三國町
後撰集 数人きてもおゝれん陸奥のゝ井戸乃山吹ゆ花 橘公平女
新古今集 乙君いるの乃煙ゆてむすきゆめやと放りん 弁乳母
新勅撰集 さらぬまて乙ゝ山橘おちるる松ゝうる白雪 典侍固子
新後撰集 秋の夜乃源き乙ゝとゝめりか吉野の月乃明る共や 俊成女
玉葉集 まれつ天乃河原ゝ秋立くゝ紫を度を波の字橋 安嘉門院四条
風雅集 山人の乃入ゝ乃行もは茅よか真代柴乃下乃 從三位為子

平載集　下むせつ世戸火れ煙いほて名よハ天てと思そむん　平親清女

野拾遺集　吹さつる夜火れおの留乃ゝさんをてや神もゆのん　小弁

書学

童女　書学

つ〻ハめ天ゐさ伝よりてす〻ふわざを。形無てさ〻う教ぎこと

墨筆　撰　無上

る毛ゞすみふです〻びす〻えわいでゝいる〻古無れ〻なき〻て

手　心　習

のうかゞも。さ〻伝ふゐれてす〻ゆ。たるよちく名ぐを毛し。

真名　假名　文字

まんゐ天ゐさ〻みさるをさ〻ちるかんれのをぶけちるてもじを。

書　興

ゐ〻ぢ〻かいつ〻ぢ〻さるも。ま〻ゐ〻あるゐさちるを。む〻ゐす

筆道　妙

いまゐ〻いゐす〻て。ふでのゐ〻ちふ天た〻ちるゐて。

光明皇后　淡海公　第二の女　紫式部　為時の女　和泉式部　大江雅致の女

光明皇后　淡海公　第二の女　紫式部　為時の女　和泉式部　大江雅致の女

紀貫之女　八條女院　鳥羽院皇女　小大君　大江太成女　四条局　名ハ伝佛　為家室

文内局　小弁氏通　大閤秀吉公の政所　淀殿ゆゝ人也　佐〻木氏照元　志須摩の女　潤照　古屋氏　栗津基母

長谷川氏妙真　筆海子と号　京都人　長谷川氏冨　長谷川氏冨　長谷川氏冨

長谷川氏佐世　椎村氏尾上　居初氏伊京　林氏業　大坂の人　荒木氏道丑

伊勢の人　る木氏佐世　宦田氏伊勢　大津の人　伊田氏吉　玄珠尼花母　名ハ源

垣内氏頂恵　玄名氏頂广　大坂の人　文湾氏　冨岩氏吉蔵　渤海氏

名ハ男。字ハ麗華。　龍氏真　初の名ハ菊　平伊好母　名登免　徳女　龍氏貴　龍氏輝

筆　跡　唐土

これ〻のふでのあ〻ゑて。ち〻伝こ〻ち　北蔡陀。衛夫人。管夫人な

法帖　劣

どもとさ〻くれたるすぐきものそのふで北あ〻とあづき

鏤

よちりだめ〻らてほんよ天て。佛足石銘　光明皇后　北書　北季女文章　小弁氏通の女

女筆手本　同書　永字往の集　同書　千字文　佐々木照元書　三體詩絞白　同書

女筆指南集　長谷川妙真書　女筆ちぢれ文　同書　因雅俊伸　同書　因重井壽　長谷川てい女

同志の居同書 め奚侯教居初氏 はち女 女教文章温林氏 葉女 女筆初喜代乃
荒木氏 芝忍書 同小金子女 高木氏 佐世書 女今川姫 宣田氏 はる女 女筆岐阜山 沢田氏 吉女 同
秋田風 垣内氏 須恵女 同文みよ 春名氏 須麻女 め文章庵 同女 め多芦乃露 宮崎
氏書 同みよ 長谷川氏 志ま女 同郁代 徳女 手木 子字文 渤海氏 ていス 一筋 め今川百花 学 年月
め多常訓。こまゝのてほんを ゑとさてちよまちびゝはれを
つみゝ。さゝみたゝすゝうだ。ふるきふでのゝちおのつゝこゝろ
よ力ゞゝてさ面ちるみち。 融通 絶妙 道 古 華 道 自 心
絵ゑ事素
ゑのことハさろきをのちゝ。けいてんよちるゝまゝかし。
されたのきいえほ。ゝだゝじるたち
ハぼりぎよさちるゞれる。あたのつきをゝつし。えものいろ
峻 岩 春霞 秋 月 花 色 清

深 千草 芳 蝶 鳥 飛
ふゝ。ちゝさのかほをあちるゝでふとりのとぶゝふちとさ
ほゞくハいろゞりくゝ。ふでゞこほゝさゞ。いちゞゝたる
さ角。きゝゝんされをいみゞゝたとほをかくをものこ
をせゞ。ことゝをんちものゝるゝ。平清盛ハ女
茨原徳後の孫女のゞゝ。 華 書 美麗 男 是
息女。清原氏女。茨原隆信の女。 絵 妙 男 女 書 是
女。狩野探幽女 宮仕 ちゞをいゞーやゝちゝるふかゝんわざ。たく
ちものをとゝふるきふゝゝんゝゝ。 巧 禁 絵 妻 元信

女學能上手